



特集1

# ほんとの出会い

本との出会いは赤ちゃんのころから始まります。  
人生に寄り添う本と、出会ってみませんか。

## ブックスタート

市では、生後6カ月の子を対象に、絵本を開く楽しさを親子に体験してもらう取り組みを行っています。写真は、石樽子育て支援センター「はっぴい・はあと」で民生委員による読み聞かせを受ける親子の姿。保護者のひざの上で安心しながら、本と初めての出会いを経験した瞬間です。

## 読み継がれるロングセラー



「ぐりとぐら」  
なかがわ りえこ作、おおむら ゆりこ絵  
福音館書店



「きんぎょがにげた」  
五味 太郎作  
福音館書店

## 新たな視点



「りんごかもしれない」  
ヨシタケシンスケ  
ブロンズ新社



「の」  
junaida 作  
福音館書店

## ユニークなキャラクター



「まないたにりょうりをあげないこと」  
シゲタ サヤカ作/絵  
講談社



「ノラネコぐんだん パンこうじょう」  
工藤ノリコ 著 白泉社

## 広がりをもせるテーマ



「ピンクはおとこのこのいろ」  
ロブ パールマン文、イダカバン絵、ロバート キャンベル訳  
KADOKAWA



「ふたりのママの家で」  
パトリシア・ポラック著/絵、中川 亜紀子訳  
サウザンブックス社



いなべ市  
生涯学習課  
北勢図書館司書  
伊藤 千夏さん

## 本を開くことで、誰もが楽しい時間を持てるように

本を読むと興味や知識が広がる、創造性が育まれるといったことを聞いたことがありませんか。学力が向上するといった研究結果もあります。しかし、読書の効果は後からついてくるおまけのようなもの。大切にしたいのは、本を読む楽しさです。

子どもが本を好きになるには、まず、大人が本を楽しむこと。子どもが生ま

れて初めて図書館に来た、子どもの頃に読んだ本に再び出会ったという人も多いです。子どもと一緒に図書館へ出かける、本を選ぶ、そんな経験も楽しみの一つですね。

出版不況、少子化にもかかわらず絵本の売り上げは好調です。読み継がれるロングセラーに加え、従来の枠を超える多様な作品が増えていることがそ

の理由の一つです。新たな視点やユニークなキャラクター、広がりをもせるテーマなど大人にも新たな出会いが待っています。

子どもと本の出会いに大人の役割は重要ですが、難しく考えないでください。本の楽しみ方にルールや決まった方法はありません。まずは子どもの手の届く場所に本を置いてみてください。

子どもたちに届けたい

# 本との **楽しい!** 出会いを

市では「いなべ市子ども読書活動推進計画」に基づいて、市内の小学校でブックトークを実施しています。学校に出向き、子どもと本の出会いのお手伝いをしている学校図書館コーディネーターの畑中初子さんに、読書について話を聞きました。

## 絵本の世界に触れること

恐竜が好きになった子は、ひたすら恐竜の絵本を読みます。十分に読むと、次の分野に移ります。その過程を見守ってあげてください。興味を深めて、心が満たされると、自発的な読書につながっていきます。

絵本の世界に入り込むと、現実世界では体験できない経験ができます。絵本の世界の中で、「相手はこう思うのか」「自分ならこうする」など、追体験や共感をしていきます。それは、心の経験と言えます。心の経験を重ねると、じっくりと考える力が育まれていきます。

## 子どもは絵を読む

子どもは、本を読んでもらっているとき、目で見た情報と耳で聞いた情報を頭の中で掛け合わせています。「ロージーのおさんぼ」という絵本は、文章は最小限ですが、絵が素晴らしい。その絵を見て、子どもは音や匂いまで想像します。「絵を読む」楽しさがある絵本は、優れた絵本だと言えます。そのような絵本に触れると、

知らず知らずのうちに、ゆっくりと感性が育まれていきます。読み聞かせの時、子どもは絵で理解するので、文章を待ってられません。文章の多い絵本「だいこんだんめん れんこんざんねん」では、読み終わらないうちに、子どもがページをめくってしまいます。でも、それでいいのです。それを何回も繰り返すうちに、次第に最後まで文章を聞けるようになります。

## 本との出会い

たくさんの中から、読みたいと思う本を選ぶのは、とても難しいことですよね。子どもの間では、妖怪などの本が人気ですが、それ以外にも素晴らしい本がたくさんあります。ブックトークは、子どもたちに出会ってほしい本の紹介をして、「読みたい!」につながる活動です。開催には、市の図書館司書さんたちの存在が欠かせません。テーマに沿ったいろいろな領域から選書してくれます。あなたが、もし読みたい本に悩んだら、図書館司書さんに尋ねることをおすすめします。とてもよく本のことを知っていますよ。

本に出会ったら、読む環境を作ってあげることも大切です。読書中はテレビを消す、大人が本を読む姿を見せるなど、生活リズムの中に取り入れましょう。

そして、子どもが読み終わった時、すぐに「どうだった?」と聞かないで。読後は余韻に浸りたいものです。義務ではなく、読書を楽しむ気持ちを育みましょう。



「ロージーのおさんぼ」  
パット・ハッチンス作、わたなべしげお訳 偕成社



「だいこんだんめん れんこんざんねん」  
加古 里子作 福音館書店



①「本の内容全部を明かさないので、ちょっと意地悪な紹介なんです」と畑中さん ② 続きは?とひきつけられる ③ 星や空に関する科学絵本から神話の物語までジャンルはさまざま ④ これから読んでみたい本を手に ⑤ 何度もブックトークを経験しているので、興味のある本を探すのも慣れた様子

7月11日(月)、治田小学校4年生22人が校内の図書室でブックトークの授業を受けました。テーマは「星空はロマンチック」。毎回、テーマに沿った5冊の本が紹介されます。畑中さんは、過去の大きな隕石のニュースを話し始めました。子どもたちの興味がグッとひきつけられたところで、本の紹介がスタート。

「なかなか眠れないって経験はある?」と問いかけながら、本を紹介します。内容を全部話さず、「気になる人は読んでみてね」と切り上げる畑中さん。自然と子どもたちが「このあとどうなるの?」と思うための手法です。授業後、読みたい本を手にとった子どもたちは、少し誇らしげな表情をして、教室に戻って行きました。

## \\ ブックトークって、楽しい! //

星のことは知らなかったけど興味わいた!

楽しかった! いろいろ知れたから本を読んでみようと思う。

本の紹介やクイズもあって面白かった!

良い本がいっぱいあることを知れて良かった!



いなべ市学校図書館  
コーディネーター  
畑中 初子さん



# 出会いのかたち、イロイロ。

## 1 森の中の図書館



**森の中で出会う**  
キラキラとした木漏れ日の下、心地よい風を感じながら、ゆったりと本を読みたい。「森の中の図書館」は、そんな思いが実現できる企画。今年春に5回、屋外のイベントに登場しました。今回は、にぎわいの森で開催される10月23日(日)のいなこねマルシェの予定。

## 2 つながる絵本



**世代を超えて出会う**  
かつての子育て世代から次の子育て世代へ、絵本のバトンリレーのような取り組みが昨年からはまりました。市内4つの図書館の窓口では、不要になった絵本の寄附を受け付けています。寄附された絵本は、10月30日(日)の図書館まつりで配布予定です。



絵本が並べられていて、「こんな絵本あるんだ!」と知ることができました

二井 仁美さん  
柚羽さん

この絵本をもらったよ。おもしろいから大好き!

橋本 岳さん  
空さん

## 3 まちライブラリー



**憩いの場に出会う**  
健康などのちょっとした困りごとを無料で相談できる「いなべ暮らしの保健室」。ここでは、誰かが持ち寄った本を、誰でも借りられる「まちライブラリー」の取り組みを始めています。

住所：員弁町楚原 644-19  
時間：9：00～17：00（土日祝休み）



本の感想を言い合ったりして、コミュニケーションが広がっています

水谷 祐哉さん

## NEW 電子図書館 新たな出会いの形 9月17日(土) から開始

近年、スマートフォンやタブレット端末の普及によって、電子書籍の利用も増えてきました。読書スタイルが多様になっている中、市でもスマートフォンなどで本が読める「いなべ市電子図書館」を開始します。

電子図書館とは、実際に図書館に行かなくても、インターネットを通じて、パソコンやスマートフォンなどから電子書籍を無料で借りて読むことができるサービスです。

- 利用資格 市内在住、市内勤務または市内通学の人で図書館利用者カードを持っている人
- 貸出冊数 貸出数1人3点まで
- 貸出期間 15日間※期限が来たら自動で返却
- 予約冊数 1人3点まで、延長は1回のみ可能



図書館ホームページ▶



タブレット端末やスマホで、24時間いつでもどこでも読書!



いなべ市  
員弁図書館司書  
本間 南帆さん

電子図書館では、こんなことが可能です

**24時間 365日**  
24時間365日貸出しできます。図書館が休館の日でも利用できるので、自分のライフスタイルに合わせていつでも利用できます。

**拡大・読み上げ機能**  
小さくて読みづらい文字を拡大できます。読み上げ機能では、視覚に障がいのある人や目が疲れやすい人も、音声で本を楽しめます。

**2カ国語の絵本**  
スペイン語と日本語/英語と日本語のような、2カ国語の音声つき絵本コンテンツもあります。

Português Español English

## 多様になる読書スタイルに合わせて

市では、読書の機会を増やすため、この秋に電子図書館を開始します。

いつでもどこでも読める電子図書館は、忙しい学生や社会人、育児や介護などで家庭から離れにくい人などにも利用してもらえます。

小中学校でもタブレット学習が始まりました。デジタル機器に慣れた世代には利用しやすく、動画や音声付きコ

ンテンツもあり、本に親しみの薄かった子どもの利用も期待されます。

また、悩みを持つ子どもが他の人に知られず本を借りられるというメリットもあります。

社会のデジタル化が進むなか、電子か紙かということではなく、読書形態の選択肢が増えると捉え、自分に合った方法で読書を楽しんでもらいたいです。



いなべ市  
生涯学習課長  
北勢図書館長  
伊藤 功さん

# 本が好き！な気持ちを育む

図書館の取材中に会った小学4年生の安田愛結さんは、毎日本を読むほど、大の読書家です。「本が好き」という気持ちをどう育んだのか、母の香織さんと親子で振り返ってもらいました。

安田 愛結さん、香織さん



## 本を読むようになったきっかけ

**香織さん**●生後6カ月ごろのブックスタートがきっかけで、市の図書館に通うようになり、赤ちゃん絵本を借りては、昼寝や就寝前に夫婦で読み聞かせしていました。今では、休日のお出かけ先の一つとして、家族みんなで図書館に通っています。

**愛結さん**●お父さんの読み聞かせは、声を変えたり、登場人物になりきったりと、笑わそうとしてくるので楽しかったです。弟たちが生まれて、今度は私が夜寝る前に読み聞かせをしてあげています。「だるまさんが」シリーズは、読みながら、自分が読み聞かせしてもらったことを思い出します。

**香織さん**●リビングに本棚がある友人宅がありました。くつろげるスペースに本があるってすてきな、と思ったので、我が家でもテレビの横に本棚を置くようにしています。図書館から借りてきた本は、この本棚に並べ、夕食後やちょっとした空き時間に、「本読んだらどう？」と子どもたちに声をかけています。読書が生活の一部になればいいな、と思っています。

## 絵本から児童書へ

**愛結さん**●小学2年生のころ、お母さんに「文章が多い本を読んでみたら？」と言われて、はじめて自分で読みたいと思って借りたのが「かいけつゾロリ」シリーズです。そのあと、「おばけマンション」シリーズを読むようになりました。文章が増えて、絵が少なくなったけれど、話が面白かったので読めました。おばけや

ファンタジーのような現実にはない物語は、「こんなこともできるの？」とワクワクできるから大好きです。

**香織さん**●絵本から児童書へ、どう移っていけばいいのか悩みました。そんな時、ゾロリシリーズは文章の量がちょうど良く、うまく児童書へ渡っていけました。

## 本の魅力

**香織さん**●私も普段、本を読みます。娘とお互いに読んでいる本の話をするのが楽しいです。大人と会話できる知識や語彙力を得られるのは、本の魅力だと思います。私が知らないことも教えてくれます。

**愛結さん**●本は集中できるのが良いと思います。本を読んでいると、名前を呼ばれていても気付かないこともあって、たまに「何回も呼んだよ！」と怒られることも。本の世界では、登場人物になりきれ。そこでは、いろんなハプニングがあるのが面白いです。

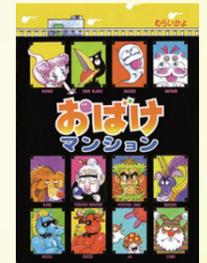
**香織さん**●長女が今好きなのは「ひみつの魔女フレンズ」などのファンタジー。いつも行く図書館に、借りたい本が無いときは、図書館の司書さんに尋ね、別の図書館から取り寄せてもらいます。市内の図書館にも無いときは、リクエストサービスを利用して県内の図書館から取り寄せてもらうこともあります。新しい本を読みたいときも、尋ねるとすぐに調べてくれるので、我が家の読書は司書さんのおかげですね。

**愛結さん**●本を読んでいたら、ちょっと嫌なことがあっても忘れられるのも本の良いところ！大きくなったら、お母さんが読んでいる本を読みたいです。

## 「本が好き」を育んだ本たち



「だるまさんが」  
かがくいひろし  
ブロンズ新社



「おばけマンション」  
むらい かよ作/絵  
ポプラ社



「かいけつゾロリの  
ドラゴンたいじ」  
原 ゆたか作/絵  
ポプラ社



「ひみつの魔女フ  
レンズ はじめてのマジ  
カル☆ストリート」  
宮下 恵菜作、子兔。絵  
学研プラス

## 図書館は出会いの宝庫

2週間ごとに家族で図書館に通う安田愛結さん、陽人さん、彬人さんの仲良しきょうだい。いつも図書館で借りられる上限の冊数を借りています。図書館からの帰り道に大荷物になるのは、安田家では見慣れた光景です。



## 友人のような本に出会う

「本はもう一人の友人」。児童文学作家の長田弘さんは著書「読書からはじまる」でそう記しています。そして、再読は友情の証とも。新しい友人と出会う、かつての友人と久しぶりに再会する気持ちで、本に手を伸ばしてみませんか。

今回の特集で紹介した本は、全て市の図書館で借りられます。